

春日神社

社報 春日神社

第二十三号

発行日 平成27年6月20日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ／東日本大震災被災の福島県諏訪神社を訪ねて

夏季大祭のご案内／茅の輪神事／皇居勤労奉仕団

春日敬神婦人会日帰り親睦会／神宮雅楽講習会

手水舎の改修／人事／ブライダルフェア

御挨拶

宮司 宮本 隆之

梅雨の季節を迎えて雨天曇天続きには閉口するところですが、鎮守の杜の木々の若葉が厳しい夏の前に充分な水を得て、酷暑を乗り越え力強く育ちゆくことを思えば、かなりな量の雨もやはり必要なだと納得致します。

さて、本年は大東亜戦争七十年の節目の年にあたると、本紙前号の巻頭挨拶にて申し上げましたが、天皇皇后両陛下には犠牲者の慰霊追悼の為、四月八・九日の二日間にわたりパラオ共和国へ行幸啓、ペリリュー島「西太平洋戦没者の碑」に御拝礼・御献花されました。ご承知の通りに、パラオは第一次世界大戦後から今次終戦までの間、日本の委任統治領として南洋庁が置かれた関係で多くの日本人が住居していた歴史があり、今日でも親日国家として知られているところです。御滞在中の晩餐会では、戦後ずっと同国によって慰霊碑や墓地の管理、清掃、遺骨収集などがなされてきたことに対して、陛下は感謝の御言葉を述べられました。

私を含めて戦後に生まれ平和の中に育った世代が国民の多くを占める今日、この七十年を契機として、祖国の平和と発展を念じて散華された御英霊に対し慰霊顕彰の誠を、より一層捧げて行かなければならないと、あらためて考えた次第であります。

当社境内（春日公園）にも昭和四年に建設された「忠魂碑」がありました。日清・日露戦争や済南上海事変、大東亜戦争にて戦死された御英霊をお祀りしたものです。建設当初のものは高さ十メートル以上もある大きなもので、昭和三十三年に一度改修されましたが、老朽化により止む無く平成六年に解体され、公園西側に題字部分のみの三メートル程の小さな碑として移設されました。この節目の年にあたり当社としても、秋季大祭に併せて碑前での慰霊祭を斎行するべく計画しているところです。

最後になりましたが、例年通り六月三十日には夏越の大祓式（茅の輪神事）、七月十八・十九日には夏季大祭を斎行致します。氏子崇敬者皆様には是非ともご参拝下さいますようご案内申し上げます、一言ご挨拶とさせていただきます。

祭典ごよみ

六月 三十日 水無月大祓式

七月 十八日 夏季大祭 宵祭

子ども神輿巡行

十九日 夏季大祭 夏越大祭

大神輿巡行

九月二十五日 撰社天満社祭

十月 十八日 秋季大祭 宵祭

十九日 秋季大祭 神幸祭

潮搔き神事

十一月十五日 七五三祭

※当日に限らず、毎日祈願祭を奉仕しています

十一月二十三日 新嘗祭

十二月二十三日 天長祭

十二月三十一日 師走大祓式・除夜祭

● 毎月一日・十五日は月次祭

東日本大震災被災の福島県諏訪神社を訪ねて

宮司 宮本 隆之



五月四日、福島県いわき市久之浜に鎮まります諏訪神社の例大祭に参列してきました。諏訪神社は目前に太平洋が広がる海岸近くに鎮座しており、東日本大震災の際に被災し、復興支援として当社から子供神輿をお贈りした神社のうちの一社であります。

当日は拝殿内にいっぱいの参列者と境内を埋める神輿奉仕者の中、厳かに祭典が斎行され、私も玉串拝礼をさせて頂きました。

祭典に引き続き、東京浅草神社から奉納された大人神輿を先頭に三基の神輿が出御し、途中のお旅所からは当社贈呈分も含めた子供神輿三基が加わって、子供たちの掛け声も賑やかに二時間程をかけて氏子地域の巡行が行われました。神輿到着後には境内前の海側広場にて、東京を中心とした神社関係者と福島・新潟両県の青年神職会の協力により縁日が催され、私もその中に加わってお手伝いしました。偶然にも、被災時に大分県内にあるご親族宅にて避難生活をされた方にお会いしお話をする機会があつて、思いがけずとても貴重な時間となりました。

祭典は少しずつ賑わいを取り戻しつつあるとのことですが、防波堤工事や植林の様子、また取り残されたままにたっている被災住宅などの景色に加えて、避難生活をしている方々のお話なども合せて考えると、やはり復興事業は歩みだしたばかりであり、風化することのない私たち一人一人の支援の必要性を感じた次第です。

子供神輿を介して御神縁を頂きましたことから、これからも機会をつくってお参りを続けたいと思っています。



夏季大祭の

ご案内

当社祭典の中で一番規模の大きい行事である夏季大祭までとわずかとなりました。この行事に向けて、当社氏子青年会会長宮本重樹氏、また本年度総先導を務める小林祐二氏を中心に五月から準備会議を開始、そしていよいよ巡行路が決定しました。

神輿の担ぎ手は例年約六百名となっており、今年も氏子町内や一部企業からの参加者を取りまとめています。参加希望のお問い合わせは社務所までご一報下さい。

また、各企業のご協力により境内や参道には「奉燈」が灯されますので、こちらもご覧頂きたくどうぞご参拝をお待ちしております。

七月十八日(土)

午後三時

子ども神輿巡行

(雨天の場合は二十日に順延)

午後四時

宵祭

七月十九日(日)

午前十一時

夏越大祭

午後二時

大神輿巡行

※両日とも庄内神楽の奉納があります

夏越の大祓式 茅の輪神事のご案内

一年のちようど半分にあたる六月三十日には全国の神社で大祓式が行われます。この日、境内に茅(かや)で作られた輪が立てられ、「茅の輪(ちのわ)」神事と呼ばれる行事が執り行われます。この神事は半年の間に知らず知らずして身についた罪穢れを祓い除いて、無病息災・厄難消除を祈る神事です。

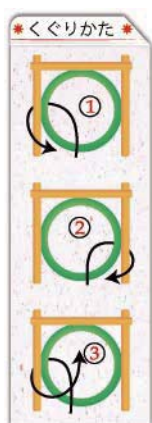
特に水無月の大祓は、「夏越の大祓」とも呼ばれ、元気に暑い夏を乗り切るとともに、新たに迎える半年をさわやかにまた清らかに過ごしていこうとする、私たちの祖先の生活の知恵とも言うべきものです。

当社では三十日当日の朝から、神職の手により一本一本選り分けられたみずみずしい茅と青竹で作られた「茅の輪」が拝殿前に設けられ、午後四時から神職総代による祭典が行われます。これには一般の方の参列も自由です。またこの「茅の輪」は境内に数日間残していますので、どうぞご参拝下さい。

水無月の夏越の祓いする人は
千歳の命延ぶというなり

● 茅の輪のくぐり方

茅(かや)で作られた大きな輪のことで、それをくぐるにより、知らず知らずに犯した罪やけがが祓われると云われています。くぐり方には決まりがあって、左まわり・右まわり・左まわりと、8の字を書くように三度くぐり抜けます。そうすると身も心も清らかに祓われると云われています。



第六回 皇居勤勞奉仕団に 参加して

春日氏子青年会
朝見 高樹

去る四月二十日より二十五日までの六日間に亘り、宮本宮司を団長として、近隣の王子神社や長濱社からの参加者も加えた総勢二十八名にて皇居勤勞奉仕に行っていました。

東京へと向かう空路は、悪天候にて気流が荒れたことから飛行機がかなり揺れましたが、無事に宿舎となるホテルに到着。各自チェックインを済ませた後、結団式と夕食を兼ねた交流会が催されて、期間中の結束を図りました。

勤勞奉仕初日、昨日の荒天とはうって変わり素晴らしい晴天に恵まれてのスタートとなりました。定刻、桔梗門前に集合して身分証明の確認を済ませてから、勤勞奉仕者の待合所となる窓明館に向かい、他の団体と一緒に期間中の説明を受けました。今回は前日からの奉仕団もあり、三百五十名ほどの大人数とのことでした。

宮内庁職員と共に蓮壕池から庁舎前、さらに宮殿前を通り二重橋付近の伏見櫓下にてまず記念写真撮影がありました。それから東御苑の見学の後、清掃作業を行いながら既舎へと向かい、「打毬（だきゅう）」や「母衣引（ほろひき）」といった古式馬術の練習を見学しました。通常では非公開とのことですが、新米の馬を大勢の観覧者に慣れさせるための練習だそうです。かえって普段見ることの出来ない練習風景に立ち会えることが出来、皆さんは大変喜んでいました。

二日目は宮中三殿や吹上御所、御田植所へと向かい清掃作業を行いました。また、御田植所の隣には、皇后陛下が養蚕でお使いになられる桑を育てている桑園もあり、「小石丸」という日本産種の蚕から作られた糸によって、三の丸尚蔵館所蔵の「春日権現験記絵（かすがごんげんげんきえ）」の修復がなされたとの説明に、私たちの春日神社とも関わりのあることから、とても感銘深くお話をうかがいました。

この日は奉仕終了後に、本年終戦七十周年の節目を迎えることから、春の例大祭が斎行されている靖國神社へ参拝。勤勞奉仕とはまた別の意味での緊張感を持ったひと時を過ごしました。

三日目は赤坂御用地での奉仕活動です。記念写真撮影ののちに担当職員から、先日行われた春の園遊会では招待者がどの辺りに並ぶとか、テレビカメラがどこに設置されているかなどの説明に加えて、「実際に皆さんが招待された時には、この辺りに立つとカメラ映りが良いですよ」といったユーモアを交えながらのお話がありました。

午後には皇太子殿下のご会釈を賜るため、東宮御所に各団とともに集合しました。各

団長に対して皇太子殿下からお言葉があり、最後に万歳三唱をしました。

最終日となる四日目は皇居宮殿の中庭見学から始まり、四季折々の表情を見せる花木の様子は仕事柄とても興味深く、私にとって参加目的の一つであることから、とりわけ念入りに観察しました。この季節は春の落ち葉が多い時期であり、宮殿前広場の清掃では特に念入りに作業を行いました。

午後からいよいよ天皇皇后両陛下のご会釈を賜る蓮池参集所に各団とともに集合です。両陛下への万歳三唱の先導を、各団を代表して宮本宮司がとめることとなり、全員で心をあわせて力いっぱい万歳をおこないました。両陛下が退所される際に、皇后陛下より私たちの万歳三唱に対してお褒めのお言葉があり、団員としてとても誇らしく感じました。

ご会釈後に少し清掃作業を行い、窓明館で職員からの挨拶と続いて賜り物を頂き、今回の勤勞奉仕を終了しました。この後私たちは河口湖温泉に移動、富士山を望む旅館にたると語り合い分かち合いました。四日間にあたる奉仕を振り返り、感動や驚きを皆さんと語り合い分かち合いました。

最終日は河口湖を出発して北口本宮富士浅間神社に正式参拝した後、富士山からの湧水で有名な忍野八海を散策。横浜の中華街にて昼食をとり、羽田空港にて解散式をおこなって一路大分へと戻りました。

この春日神社皇居勤勞奉仕団は平成十六年に始まり、今回で六回目となりました。私はこれまで欠かさずとなく参加させて頂いており、回を重ねるごとに皇室を戴く私たち日本の有難い国柄に対して感謝の思いを強くしています。この気持ちをひとりでも多くの人に伝えること、そして次回以降も続けて参加していきたい、そのような思いでいっぱいです。神社とご参加の皆さん、大変うございました。



春日敬神婦人会 日帰り親睦会春日敬神婦人会

会長 續 道子



当会では毎年、新緑が美しいこの時期に県内の神社を参拝する日帰り親睦会を開催しております。本年も六月一日、会員十八名と神社から山本榎宜、妻垣権榎宜のお二人の引率を加えた計二十名を乗せて、バスは県北の街、宇佐市へと出発致しました。この日は雲一つない快晴となり、素晴らしい研修日となりました。

最初にお参りする宇佐神宮は県内唯一の旧官幣大社であり、全国四万社余りある八幡様の総本社とされています。また本年は七十四年ぶりとなる本殿遷座祭が、天皇陛下のお使いである勅使をお迎えして、五月二十七～二十八日の二日間にあたりおこなわれたばかりです。私もニュースで拝見したましたが、還御の行列は大変厳かでした。早速、上宮祈禱殿でお祓いを受け、神様がお還りになられたばかりの本殿前に進み、正式参拝をさせていただきました。ご案内いただいた神職のお話により、『平成の大修理』と銘打った事業は、本殿檜皮屋根の葺き替えを始め、塗装や金具等の補修、殿内鳳凰の障壁画の修復などが行われたそうです。そのうち国宝本殿の塗装に関しては国の方針転換により、工事途中で中国産漆から国産漆に変わったとのことでした。

神宮での参拝を済ませ、隣の宇佐市安心院町へと向かい、昼食を頂きました。安心院町は西日本有数のブドウの生産地であり、昼食会場に隣接する安心院葡萄酒工房では、地元のブドウを使ったワインが多く販売されています。昼食と買物をすませ、妻垣神社へと足を進めました。

同社は、本日引率下さいました妻垣権榎宜さんが榎宜を務めるお宮です。こちらでは、今年の十月に御社殿創建千二百五十年式年大祭という大きな祭典が行なわれるそうで、この三月から御社殿の修復工事が進んでいました。そのため唯今は、神様は境内の御仮殿にお遷りとのこと、今回はそちらで参拝させて頂きました。また総代の方々が御出迎えのうえ温かいおもてなしまでして下さいました。総代のお話により、こちらのお宮は宇佐神宮と深い繋がりのあるお宮だそうで、宇佐宮に参向された勅使に対して八幡様から御託宣が下され、社殿が造営されたとのこと。また境内にはかつて神職を養成する学校『騰宮学館』が昭和二十年の閉校まであった事、そして文豪松本清張氏が無名の時代より何度も訪れており、こちらを舞台にした小説『陸行水行』のお話もして下さいました。

今回は真夏ともいえる暑い最中ではありましたが、それぞれ個性のある二社を参拝させて頂いたき、参加した会員一同充実した親睦会となりました。



神宮雅楽講習会

木村 美月
中村 莉奈

去る六月二日から六日までの五日間の日程で、三重県伊勢市の神宮にて雅楽講習会が行われ、当社より神田権禰宜と本年度奉職しました木村、中村両巫女の計三名が参加致しました。神田権禰宜は持ち管である筆簀を、巫女二名は恒例祭や結婚式の際に奉納する祭祀舞「豊栄舞」を受講研修してまいりました。

この春、高校を卒業して奉職した私たちは二月という短い中で、今講習会に向けて練習を積み重ねてきました。

講習では講師の先生と上級の受講生より、手や足の細かい動きや角度まで丁寧に教えて戴きました。初日の講習が終わってからは、他の受講生の方々とも打ち解け、隣接する「おかげ横丁」にも連れて行ってもらいました。また、他神社の巫女さんからは、それぞれ奉職している神社の事などをお話しして下さり、とても勉強になりました。

最終日には集大成として、参集殿能舞台にて先生方や一般参拝者が見守る中で舞を奉納しました。講習の時とは違う雰囲気です緊張しましたが、私たちなりに精一杯舞うことが出来ました。最終日の御垣内参拝など、今まで経験したことがない貴重な体験もさせて戴き感謝しております。これからは、この講習で学んだ事を生かしてご奉仕してまいりたいと思います。

木村 美月

今回の講習では、全国各地から一四八名と多くの方が参加されており、そのうち「豊栄舞」は私たちを含め約二十名が受講致しました。私たちのように初心者から毎年参加されている人たちまで年齢層も幅広く、舞だけではなく、皆さんのお話はとてもためになる事ばかりでした。

私は舞がなかなか覚えられず、他の受講生が上達していく中、自分が追いつけなくなっている時に、上級の方や講師の先生が細かく丁寧に教えて下さり、初めに比べるとなんと成長を実感する事ができました。また講習当初はとても緊張しましたが、日が経つにつれて緊張もとけ、講習を受けるのが楽しくなってきました。

今回の研修で伊勢の神宮を初めてお参りした喜びと、講習が無事に終える事が出来たことに自信をもって、この研修で学んだ事を今後のご奉仕にて生かしていけるように努めてまいります。

中村 莉奈



手水舎の改修

手水舎とは、神域に入る者が、手を洗い口を濯いで身を清めるための場所で、「てみずしや」とも「ちようずや」とも読みます。

当社の手水舎は神門をくぐってすぐの場所にあり、昭和四十二年の竣工以来、支柱には経年による欠損、ひび割れが目立つようになっておりました。そこでこの度、改修を行うと共に塗り替えを施しました。これによって柱の朱色も鮮やかに、耐震の面でも強度を上げることができました。参拝者の皆様にはご迷惑をおかけいたしましたが、現在は平常通り利用できます。



人事

退職

平成二十七年三月三十一日付

巫女 白石 かおり

採用

平成二十七年四月一日付

巫女 木村 美月
巫女 中村 莉奈



「春日神社ブライダルフェア」

春日ウェディング

七月二十六日（日）

十二時三十分～（十二時受付）

十四時三十分～（十四時受付）

❀ ファッションショー（デザート付き）

❀ ご結婚予定がある方もない方も
ぜひご参加ください

❀ 入場無料（予約優先）

❀ 成約特典あり

（お問合せ）

春日神社婚礼係

TEL 〇九七―五三二―五六三八

